

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3990100277		
法人名	株式会社 アイ・エム・シー ライフステージ		
事業所名	IMCグループホーム 高須		
所在地	高知県高知市高須2丁目14-7		
自己評価作成日	平成25年6月21日	評価結果 市町村受理日	平成25年9月24日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでは、入居者様の個性や思いを尊重し、一人ひとりのペース、生活歴を大切に考え、自分らしく生活が送れるように支援している。職員は入居者様と共に暮らす者としての姿勢を大切にしながら、人生の先輩として敬い、心の関わりを意識したケアに努めている。いきいき百歳体操やデイサービスセンターの利用者様との交流や隣接の町内会と交流するなど、地域との関係が深まるように取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JgvsosyoCd=3990100277-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JgvsosyoCd=3990100277-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成25年7月26日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は1階がデイサービスである複合施設の2階と3階に位置している。デイサービス施設に接した交流ホールでは近隣の町内会が主催する「いきいき百歳体操」を週1回実施しており、利用者も参加して住民やデイサービス利用者と交流している。事業所周辺は商業施設が多く、住宅が少ない環境であるが、事業所はこの交流を地域との結びつきを強める機会として活用している。その成果として、ボランティアの協力で利用者が赤ちゃんに触れ合う場を持つなどの交流ができています。また、事業所の行事や取り組みを紹介する新聞を3カ月に1回作成し、周辺の住宅に配付して広報している。管理者は、事業所の理念に沿って利用者の思いを汲み取ることをケアの中心に据え、職員も管理者と意識を共有して理念に立ち返りながら日々利用者本位のケアに取り組んでいる。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様と共に暮らす姿勢を大切にしている。毎日の朝礼時に意見交換をする時間をもうけ振り返りをしている。	ユニットごとのフロア会や毎朝のミーティングなど、ケアを振り返る機会には必ず理念を確認し、職員同士で理念に基づく意識を共有しながら利用者の思いに沿ったケアの実践に努めている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会主催のいきいき体操に、交流ホールを開放し、地域新聞を発行し、記念祭や防災訓練の案内で、交流を持っている。また、地域のふれあいセンターでの育児サークルへ入居者様と出掛けたり赤ちゃんボランティアの受入れで交流を持っている。	施設1階のデイサービス利用者や交流ホールで開催される週1回の「いきいき百歳体操」に参加する地域住民と交流し、周辺住宅への事業所だよりの配付などで地域とのつながりを深め、利用者や赤ちゃんとの触れ合いなどの交流も行われている。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事(防災訓練・記念祭)やいきいき体操を通じて来られた方から相談がある時には、対応させて頂いている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動状況等について報告し、地域やご家族の代表者、高齢者支援センターの職員から意見を出してもらい、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2カ月に1回開催し、家族数組のほか民生委員や市の高齢者支援センター等が出席し、事業所の活動報告のあと意見交換が行われている。防災関係で避難場所の情報提供などが行われているが全般に交わされる意見が少ない。	地域連携に結び付くテーマを設定するなど、運営推進会議のガイドブックも参考にしながら会議の活性化を図ることを期待したい。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村が開催する研修や会には積極的に参加しさまざまな問題に取り組んでいる。また、地区のグループホーム連絡会に参加し、情報交換等を通じ関係性を築いている。	市の担当課主催の指導説明会やケアに関する研修会などに出席したり、市が主宰する東部グループホーム連絡会を通じて事業所の実情を伝えるとともに、市から情報や助言を得て関係を築いている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に会を開催し身体拘束をしない話し合いなどを実施し、すべての職員が理解できるように取り組んでいる。フロアの玄関や居室の施錠は行わずケアや言葉かけの工夫を行い、抑圧感のない暮らしを目指している。	月1回のフロア会では、身体拘束につながるケアがなかったか振り返り、自主勉強会でも身体拘束や認知症に関する正しい知識の習得に努めている。また、年1回の外部研修へも参加し、参加職員が伝達講習を行っている。日々のケアでは、抑制の言葉かけがないよう職員同士で注意し合い、利用者の思いを理解してケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な会を開催し、虐待が見過ごされる事がないよう注意を払い防止に努め、勉強会やフロア会にて職員に意識付けをしている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修も受けている。フロア会などでも話している。スタッフが説明できるように、今後も取り上げていく。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個別に十分な話し合いの時間を持ち、契約内容や重要説明事項について理解と納得を得ている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情受付窓口や外部の受付機関の説明も行っている。ホーム内には苦情箱の設置、普段から言い合える関係を作るよう努力している。年に4回での家族会の開催で意見交換できるように取り組んでいる。	家族の面会は比較的多く、面会時やケアプランの更新時に家族の意見を聞いている。そのほか昼食会として家族会を開催し、職員も交えて歓談しながら意見を聞く機会にしている。今後、家族同士で忌憚のない意見を出してもらう場を設けることを検討している。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談やフロア会を通じて意見の吸い上げに努めている。	年2回の職員との個別面談や、フロア会で職員の意見を聞いている。職員からはケアの相談や人員の補充、勤務の変更、環境改善など様々な意見が出され、本部と協議しながら可能なものは運営に反映している。管理者は職員が話しやすい雰囲気づくりに努め、面談回数を増やすことも検討している。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課や個人面談を通じて職員の勤務状況等を把握するとともに、福利厚生の実施や資格取得の支援等、やりがいを持って働ける環境作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の新人・フロア長・リーダー研修含め社内の研修制度を充実させている。ホーム内では月1回の勉強会を行っている。外部への研修もその都度参加。上司推薦・行きたい研修にも勤務扱いにて行けるようにしている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のGH連絡会に参加している。また、合同の勉強会や研修にも積極的な参加をすすめている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にアセスメントを行い、状態の把握に努め、不安や要望を聞き入れるようにしている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談から利用開始に至るまでには、お話をよくお聞きし関係作りに努めている。ご家族の、迷い、不安、悩みには真剣に向き合うよう努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談を受けた際には状態に応じた最善の方法を探り、入居に際して適した時期か、他のサービス利用の検討も行っている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活に役割を持って頂き人生の先輩として指導して頂く事などもある。共に暮らすもの、としての姿勢を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<b>○本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会の開催や担当からの日頃の様子を伝える手紙、面会時にて関係を築いている。細かい事も伝えていくことでよりご本人と家族に寄添えるよう努めている。		
20	(8)	<b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室利用されたり、馴染みのデイ利用者様との交流や入居者様の自宅へ向近所の方との交流を行っている。	利用者の生活歴や会話から馴染みの人や場所の情報を把握し、ドライブでその場所に立ち寄るなどの支援をしている。また、デイサービスの利用者とも馴染みの関係ができており、交流が維持されるよう支援している。家族の協力による外泊で地元の人と交流することもある。	
21		<b>○利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係が出来ている。トラブルの仲介・支え合っている関係や場面を崩さないよう気を付けている。		
22		<b>○関係を断ち切らない取組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も電話や手紙にて家族との関係は続けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<b>○思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常なにげない会話などからも本人様の伝えたい事などを少しでも多く把握出来るよう努めている。利用者との日々の関わりの中からその人らしく生活出来る方法をいつも気にしている。ご家族様とのコミュニケーションも大切に考え情報を頂くようにしている。	利用者との会話における些細な言葉にも留意して、思いを汲み取ることに努めている。汲みとった日常の思いはアセスメント様式で記録し、介護計画に反映するようになっている。	
24		<b>○これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より生活歴の情報を収集し年表を作成している。これまでのサービス利用の経過もケアマネジャーや病院より情報を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々スタッフ間で情報を共有し、個々に合わせた支援ができるよう努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアでは月1回話し合いの機会をもっている。ご本人・ご家族様の意見を取り入れるようにしている。	利用者に関する情報は職員の申し送り日誌のほか、家族、看護師、主治医、利用者の友人やボランティアなど、計画に関して必要と判断される幅広い範囲から収集し、介護計画はフロア会で職員が全員参加して話し合い、計画作成担当者が作成している。計画は決定前に家族に送付して了解を得ている。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化は分かりやすくケース記録に残すようにし、必要があれば検討し介護計画の見直しもするようにしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人一人の生活ニーズに即時対応していけるように努力している。業務マニュアルにとらわれず日課を調整している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員協力の育児サークルへの参加、ボランティア(乳幼児との触れ合い、餅つき大会等の行事への参加)の協力を得て利用者が安全で豊かに暮らせるように支援している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族様の希望のかかりつけ医を利用されている。必要時は手紙での情報提供も行っている。ホームとしても入居時にかかりつけ医継続を勧めている。また、相談に応じ紹介している。	入居前からのかかりつけ医に受診できるよう支援している。受診は基本的に家族が対応し、家族が対応できない時や職員の同行が必要な時は事業所が対応している。受診結果は家族から報告を受け、記録に残して職員で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当看護職員が基本週2回勤務している。日々の状態を報告し相談しながら支援行っている。また入居者様の状態に応じ対応している。24時間体制で相談できる。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当看護師、フロア職員と医療機関と密に連絡をとり早期退院できるよう協力している。入院時は定期的な面会も行っている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族・主治医と早期に話し合いを行っている。フロア会を行いケアを共有している。主治医、訪問看護、ホーム看護師、スタッフと連携を取りながらチームで取り組んでいる。	家族等の希望があれば事業所で看取りを行う方針であり、かかりつけ医や訪問看護師等と連携し家族と話し合いながら対応することになっている。入居当初は、多くの家族が事業所での看取りを希望するが、重度化して医療措置を必要とする段階で入院を望むケースが多い。看取りの寸前まで事業所で介護した事例はある。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応等のマニュアルを作成している。実践力を身につけ自信が持てるよう努力している。勉強会・研修を行っている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの沿って、年2回消防署の協力などを得て避難訓練を実施している。また、避難路の周知、確認や、消防設備の点検も定期的を実施するとともに、非常用の飲食料も準備している。	消防署の協力を得て年2回の火災訓練を実施している。夜間と昼間の防災マニュアルを作成し、設置している消火器具等の使用方法を職員に徹底している。地震対策では避難先の確認や検討を行い、3日分の水と食料を備蓄している。	地震対策では、自主防災組織とのつながりを深め、より近距離で避難できる場所の確保や、実際に徒歩等で避難してみるなど現実に即した訓練を行うことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を通して利用者を尊重した関わりを持ち、言葉かけに敬語で行うようにしている。	利用者には敬う気持ちが伝わるよう声かけをし、職員の手がふさがってすぐに対応できないときなどは、利用者に理由を説明して納得を得ることを心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフ本意にならないよう努力し日常生活の中で、入居者様が自己決定できる場面作りに努めている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや意思決定を尊重し柔軟に対応するよう心がけ、日々のその人らしい暮らしができるよう努めている。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを失わないよう気にかけるよう努力している。さりげない言葉かけで身だしなみ直している。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に役割を持って準備・片付けと主体的に行えるように支援している。また、職員も一緒に暮らす者として食卓を共にしている。	献立は法人系列の栄養士が作成しているが、事業所で利用者の嗜好に合った調理に努めている。料理の盛り付けを工夫したり、利用者の状態に応じてきざみ食を提供し、食事前には運動をして食欲を促すなどの取り組みを行っている。職員は交替で利用者と一緒に食事を取り、家庭的な雰囲気作りに努めている。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が立てている。水分・食事チェックを行い必要に応じて刻むや食器を代える等好みの物を提供し食事・水分アップの努力をしている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に合わせ声かけや手助け行うようにしている。歯科往診で職員が口腔ケア指導を受けている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンを理解し、必要に応じ支援している。個々に合わせ支援もしている。紙パンツから布パンツへの移行も努力している。	自分でトイレに行く利用者が多く、介助を要する利用者には排泄パターンを把握して、段階的に自立に向けた排泄用品を使用し、トイレの使用回数を増やすよう取り組んでいる。家族の了解を得て、ほとんどの利用者が布パンツと尿パッドの使用になっている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取やおやつの工夫、動く事を大切に考え取組んでいる。下剤にたよらない食生活の改善工夫を行っている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ希望の時間帯に入浴できるよう支援している。入浴が苦手な方でも、言葉かけを工夫し、最低3日に1回は入浴できるように取り組んでいる。	入浴は14:00からの時間帯を設定しているが、いつでも湯を出せる状態にあり、希望する時間に入浴できるようにしている。利用者には毎日入浴の声かけをし、少ない回数の利用者でも3日に1回の割合で入浴できている。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせ支援している。日中、活動的に過ごすことで夜間の睡眠を促している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関するマニュアルがある。日頃の薬に関してスタッフ全員が確認把握出来るように努めている。ケース記録に薬情を入れ薬の情報直ぐ分かるようにしている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喫煙される方もおられる。買い物・ドライブ・行事などで楽しみや気分転換を図っている。個別に喫茶やご本人のご自宅へ出掛ける事もある。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族の協力なども含め外出に出掛けられている。入居者様の希望に応じた行事計画も行っている。	週3日～4日近隣のスーパーへの買い物を散歩コースとして出かけている。また、車で公園に行き公園内を散歩する時もある。外出は車いすの利用者も一緒に出かけている。そのほか事業所敷地の花壇への水やりや野菜の世話をし外気に触れたり、家族の協力外泊したりして外出支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお預かりしているが、ご自分で管理されている方もおられる。買物などの際にはご自分で支払い出来るようにお渡しする事もある。個々に応じ柔軟に対応している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎日電話を利用されている方もおられる。ご友人や孫さんやひ孫さんからの手紙もご本人様に渡している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出せる温度調節や飾りつけに努めている。トイレには分かりやすいように→をしている。	季節感のある壁飾りを利用者と一緒に飾り、飾りつけは利用者の目に入りやすい高さに工夫している。フロアのところどころにソファを配置して、気の合う利用者同士で話したり、一人で寛げるようにしている。また、新たに扇風機も設置して温度の適切な管理に努めている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごせるソファの配置。気の合う入居者様同士が座れる場所もある。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持込やご家族とも相談し居心地のよい居室作りもしている。	馴染みの家具や、家族の写真、仏壇等を持ち込み、なかには入居前の得意な縫物を飾りつけたりして利用者それぞれの個性のある居室にしている。ただし、馴染みのものが少なくその人らしさの感じられない居室もある。	馴染みのものが少ない居室については、利用者が居室に真に居心地の良さを感じているか確認し、利用者や家族と一緒に居室づくりをすることを期待したい。
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々にあった分かりやすい表示をし、安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:3階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様と共に暮らす姿勢を大切にしている。毎日、朝礼時に意見交換をする時間を設け振り返りをしている。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会主催のいきいき百歳体操を毎週火曜日に開催している。地域向けの新聞を発行している。赤ちゃんボランティアを受け入れ交流している。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事(防災訓練・記念祭)やいきいき百歳体操を通じて来られた方から相談がある時には対応させて頂いている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動状況等について報告し地域や家族の代表者の方より意見を出してもらいサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村が開催する研修や会には積極的に参加しさまざまな問題に取り組んでいる。地区のグループホーム連絡会に参加し情報交換などを通じて関係を築いている。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて定期的に勉強会やフロア会で意見交換をおこない理解を深めケアや言葉遣いに配慮し取り組んでいる。フロアの玄関や居室の施錠はおこなわずケアや言葉掛けに工夫するなど抑圧感のない暮らしを目指している。		

7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b></p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>定期的に勉強会やフロア会で虐待防止について職員に意識付けをしている。虐待が見過ごされる事がないよう注意を払い、防止に努めている。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b></p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修があれば積極的に参加しフロア会などでも話している。職員が説明できるように今後も取り上げていく。</p>		
9		<p><b>○契約に関する説明と納得</b></p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>個別での面談を持ち契約内容や重要説明事項について理解と納得を得ている。</p>		
10	(6)	<p><b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b></p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約時に苦情受付窓口屋外部や外部の受付機関について説明している。苦情箱の設置場所を配慮したり、普段から意見等を出してもらうよう信頼関係作りに努めている。家族会で意見交換している。</p>		
11	(7)	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b></p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>面談やフロア会を通じて意見の吸い上げに努めている。</p>		
12		<p><b>○就業環境の整備</b></p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>人事考課や個人面談を通じて職員の勤務状況等を把握するとともに福利厚生充実や資格取得の支援などやりがいを持って働ける環境作りに努めている。</p>		

13	<p><b>○職員を育てる取り組み</b></p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人研修やフロア長・リーダー研修など社内研修に参加するとともにホーム内では月1回の勉強会をおこなっている。外部研修にも上司推薦や受講希望に沿って勤務扱いで参加している。</p>		
14	<p><b>○同業者との交流を通じた向上</b></p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域のグループホーム連絡会に加入し勉強会や研修会に積極的に参加し情報交換や交流を通じてサービスの向上につなげている。</p>		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p><b>○初期に築く本人との信頼関係</b></p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前にアセスメントをおこない、ご本人の状態の把握に努め、不安や要望を聴き入れるようにしている。</p>		
16	<p><b>○初期に築く家族等との信頼関係</b></p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居相談時から利用開始に至るまでにご家族の意向などをよく聴き、関係作りに努めている。また、ご家族の迷い、不安、悩みにも真剣に向き合うよう努めている。</p>		
17	<p><b>○初期対応の見極めと支援</b></p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居相談を受けた際には、ご本人の状態に応じた最善の方法を探り、入居に際して適した時期であるのか、他のサービスの利用が適していないかなどの検討をしている。</p>		
18	<p><b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b></p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>共同生活の中で利用者に役割りを持っていただきながら、人生の先輩として職員が教わる事もあるなど、共に暮らす者としての姿勢を大切にしている。</p>		

19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>担当職員からの日頃の様子を伝える手紙などを通じて本人の状況を共有し、共に支えあっていく関係を築いている。また、細かい事も伝えていく事で、より本人と家族に寄り添えるよう努めている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの美容院を利用したり、知人等の面会が自由に出来るようにしている。家族了承のもと、従妹同士で外食をされている。デイ利用者の方の面会もある。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の馴染みの関係ができています。食事の声掛けや会話等の場面もみられる。トラブルの仲介をおこない良好な関係作りを支援している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居時の相談や情報提供、必要に応じて家族と連絡をとっている。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者との日々の関わりの中から、その人らしく生活できる方法をいつも気にしている。ご家族とのコミュニケーションを大切に考え情報を頂くようにしてりる。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前より生活歴などの情報の収集し、これまでのサービスなどの経過をケアマネジャーや病院からの情報把握に努めている。</p>		

25		<p><b>○暮らしの現状の把握</b></p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>利用者一人ひとりの状況を日々把握し職員間で情報を共有し個々に合わせた支援ができるよう努めている。</p>		
26	(10)	<p><b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b></p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>フロア会などで話し合いの機会を持ちモニタリングをおこなっている。本人や家族の意向を把握しプランに活かしている。</p>		
27		<p><b>○個別の記録と実践への反映</b></p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子や変化などはわかりやすくケース記録に残すようにし、職員間で共有し実践やプランの見直しに活かしている。</p>		
28		<p><b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b></p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者一人一人の生活ニーズに即時対応していけるように努力している。業務マニュアルにとらわれず日課を調整している。</p>		
29		<p><b>○地域資源との協働</b></p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>乳幼児との触れ合い、記念祭などへの協力を得て安全で豊かな暮らしができるよう支援している。</p>		
30	(11)	<p><b>○かかりつけ医の受診支援</b></p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族が希望するかかりつけ医を利用している。状況に応じて在宅医療の情報を伝え、受診時に家族や主治医に状態などの情報の提供をしている。</p>		



31		<p><b>○看護職との協働</b></p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師が基本週2回勤務しており、状態の報告や相談をしている。24時間体制で相談が出来る。</p>			
32		<p><b>○入退院時の医療機関との協働</b></p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>看護師、フロア職員が入院先の主治医、相談員と連絡を密にし、早期に退院できるように協力している。入院時は定期的に面会をおこなっている。</p>			
33	(12)	<p><b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b></p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人・家族・主治医と早期に話し合いをおこなっている。フロア会をおこないケアを共有している。主治医・訪問看護・ホーム看護師、職員と連携を取りながらチームで取り組んでいる。</p>			
34		<p><b>○急変や事故発生時の備え</b></p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故対応時のマニュアルを作成し勉強会や研修を通じて全職員が実践力を身に付け対応できるように努めている。</p>			
35	(13)	<p><b>○災害対策</b></p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>マニュアルに沿って年2回消防署の協力等を得て避難訓練を実施している。避難路の周知、確認や消防設備の点検も定期的実施すると共に非常用の飲食料も準備している。</p>			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	<p><b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b></p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>個人のプライバシーを尊重し職員の個人面談の場などで重要性を話し、周知するよう努めている。理念を通して利用者を尊重した関わりを持ち言葉掛けは敬語でおこなうようにしている。</p>			

37		<p><b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者からの思いや希望を聴いたり、選択してもらうよう支援している。</p>		
38		<p><b>○日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の生活のペースを大切に、希望に沿った支援を心掛けている。</p>		
39		<p><b>○身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>理美容の利用や季節に合った衣類などその人らしい身だしなみができるよう支援している。</p>		
40	(15)	<p><b>○食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者のできることを役割りとして持ってもらい、食材切り・盛り付け片付けなど主体的におこなえるよう支援している。また、職員も共に暮す者として食卓を共にしている。</p>		
41		<p><b>○栄養摂取や水分確保の支援</b></p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立は栄養士がたてている。水分、食事量のチェックを行ない、必要に応じて軟飯・粥・刻み食・とろみづけなど状態に応じた対応をおこなっている。</p>		
42		<p><b>○口腔内の清潔保持</b></p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後は個々の能力に合わせ、声掛け手助けをしながら口腔ケアをおこなっている。</p>		
43	(16)	<p><b>○排泄の自立支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>チェック表にてパターンを把握し必要時に応じた支援をしている。退院後や個々の状況に応じて夜間や外出時はリハビリパンツ、日中は布パンツに替えるなど支援している。</p>		

44		<p><b>○便秘の予防と対応</b></p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分摂取量やおやつの工夫・動くことを大切に考え取り組んでいる。</p>		
45	(17)	<p><b>○入浴を楽しむことができる支援</b></p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>できるだけ利用者が希望する時間帯に入浴できるよう支援している。入浴が苦手な方にも声掛けの工夫などをおこない取り組んでいる。</p>		
46		<p><b>○安眠や休息の支援</b></p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中も個々に好きな時間に自室にて休息できるよう室温などに配慮している。入浴や活動量に配慮している。</p>		
47		<p><b>○服薬支援</b></p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬に関するマニュアルがあり服薬前の二者確認表も取り入れ日頃から職員が確認できるようにしている。ケース記録に薬情を入れ薬の情報がすぐわかるようにしている。</p>		
48		<p><b>○役割、楽しみごとの支援</b></p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>利用者の希望に沿って買物・行事への参加や作品作りなどへの支援をしている。</p>		
49	(18)	<p><b>○日常的な外出支援</b></p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>家族・友人の協力で外出・外食など希望に沿えるよう支援している。</p>		

50		<p><b>○お金の所持や使うことの支援</b></p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的にお預かりしているが本人希望時にはご家族の了解を得て所持してもらうようにしている。</p>		
51		<p><b>○電話や手紙の支援</b></p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望時に電話をされている。手紙は直接、本人に手渡している。</p>		
52	(19)	<p><b>○居心地のよい共用空間づくり</b></p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>行事写真や作品などの掲示や季節に応じた温度調節・飾りつけなどを工夫している。</p>		
53		<p><b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b></p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>1人で過ごせたり、気の合う方と座って談笑できる場所を確保するなど工夫している。</p>		
54	(20)	<p><b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b></p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具を持ち込んでもらい居心地よく過ごせるよう居室作りを工夫している。</p>		
55		<p><b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b></p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>フロアはバリアフリーに配慮している。手摺りの配置やトイレ・浴室等分かりやすい表示など工夫している。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない